

第一部会における討議内容について

1 意見・提言の分類

第一部会(2回開催)における意見および提言を、以下のとおり分類整理した。

(1) 湯の川温泉街活性化関連

【温泉街のイメージ創出】

- ・温泉地としてのイメージがない。湯の浜公園の他は、散策するような場所がない。(番匠委員)
- ・温泉街の「顔」となるようなものが見えない。サインの問題だけではなく他の事例も含め検討すべき。(二本柳委員)
- ・昔のイメージは函館の奥座敷だったが、今では松倉川は草が生い茂り、魅力づくりや魅力を保全する取り組みが十分ではない。(星野部会長)

【植物園】

- ・熱帯植物園は熱帯植物が少なく、花もありきたりのものだ。また、猿山の二オイもきついのでこまめに掃除する必要がある。(番匠委員)

【遊歩道】

- ・遊歩道の整備について、朝、ホテルの裏を歩けるといのはすごく良いことだと思う。自然にふれあえる仕組みが必要。(番匠委員)
- ・松倉側との親水性をもたせるであるとか風情を出す必要があると思う。(折谷委員)

【漁港】

- ・湯の川漁港に、函館山や海の眺望地点や、温泉組合のプレジャーボートなどを係留することについての配慮が必要。(河内委員)

【大森浜】

- ・湯の川温泉は「まちなか」にある温泉街なので、街との連動をもっと考えた方がよいと思う。大森浜沿いは、素晴らしい景色と美しい浜辺があり、波とふれあえるようにできればよい観光資源になる。(二本柳委員)
- ・離岸堤を置くと砂が付く。湾全体に離岸堤を珊瑚礁リーフのように設置し、次第に砂が付くと、ベニスビーチからサンタモニカまでのような砂浜を再現できると思う。さらに人が歩けるくらいの遊歩道があると、そこから色々なものが生まれると思う。(二本柳委員)
- ・現在の護岸堤は撤去できないのだろうか。波に触れるというのは重要な要素だと思う。(二本柳委員)

【市民を対象】

- ・市民が何か湯の川温泉とつながりを持てるようなものがあれば良いと思う。(内村委員)
- ・市民に愛されていないければ、観光客にいくら施策を打っても空回りするだけではないか？市民が愛せば全国的な広告塔になってくれる。市民が支えなければ温泉は廃れていくと思う。(石田委員)

【アクセス】

- ・新外環状線からのアクセスが、現状で十分かどうかといった議論が必要である。(湯倉神社前の電車通りなど・・・)(折谷委員)
- ・湯の川には駐車場が少ないので、市内にある外の温泉に行ってしまう。(番匠委員)

(2) コンベンション関連

【必要性】

- ・いろいろなコンベンションがあるなかで、それが観光に結びつくと思う。こういう施設が必要だとか、どういうふうに運営、情報発信していくのかなどが課題になってくると思う。受け入れについてもキャパシティが増えると潜在的に需要はあると思う。今更箱物といわれるかも知れないが、やはり「あったらいい」という議論は必要だと思う。(星野部会長)
- ・アーティストというのは飛行機の移動を時間が読めないために嫌がる。それで一流になればなるほど新幹線が通っているところしか行かない。そうすると何年か後に新幹線が来るとなれば、そういうものも見込めると思う。(二本柳委員)
- ・1年前でも金曜土曜日に市民会館が取れなかった。あと、函館には宿泊施設が2万2,3千人あるが、大きなホテルはほとんど空いていなかった。(古川委員)
- ・新幹線が8～10年で開通することを考えると、今からハード、ソフト(受け入れ態勢)の検討をしておかなくてはならない。開通すれば必ず交流人口が増える。8年後と言っても今から始めなければいけないと思うので、ここ1,2年が重要である。開通したときに、最大のホールが築40年の市民会館で1,370人収容程度では対応できない。(古川委員)(折谷委員)
- ・青森が近くなることを考えると、30万人都市が連動していると考えられることができるので、新たな交流も生まれるのではないかと。(折谷委員)
- ・コンベンションが、会議だけでなく観光目的や家族同伴であったりすることや、新幹線の開通により函館だけのマーケットが北東北まで広がる。北海道と東北をひとつのブロックにしたコンベンションは結構多い。利便性が高まることにより、新たな需要が見込まれる可能性がある。その辺を計数化し、経済的な波及効果を考えてやるならば、早めに始めなければならない。(星野部会長)
- ・新幹線が来た時のことを考えないと、不満足な対応しかできない。結果的にお客を逃がしてしまうことになる。(星野部会長)

【立 地】

- ・市民会館を改修してコンベンションホールにするか、植物園のところに多目的ホールがあればと考えている。(河内委員)
- ・湯の川活性化懇談会でもコンベンションの話が出ているが、市民会館は同じ湯の川のエリアであって、宿泊施設やホテルの小会議室を用意できるので、新しい誘致の目玉としている。(星野部会長)
- ・駅前にも温泉付きのビジネスホテルができ、個室の対応も可能であるし、ホテルを出れば飲食街もあるので、駅前の方が、ニーズがあるかも知れない。(番匠委員)

【形 態】

- ・函館もシアター形式ではなく、横浜国際会議場のように普段はホールとして使用できて、総会の時などは椅子を出し対応する、多目的なアリーナ形式がいいと思う。また、核となる大きなものが一つあれば、小さいものは各ホテルでもある程度対応できると思う。(二本柳委員)
- ・大規模である必要はないけれど、今ある施設を組み合わせながら総合的に何とか利用できないものか(リニューアルして使うとか)。(星野部会長)
- ・市民会館を考えたときに、今の敷地に会館も体育館もというようにならないと思う。体育館はどこかに持って行って、市民会館は「市民会館」としてあるべきだと思う。そしてそれらを何処に建てるべきかを検討する必要があると思う。(内村委員)
- ・多目的に利用できることは良いのだが、ホールでは音響設備が不十分になるので、多目的ホールはいかがなものかと思う。(内村委員)
- ・市民会館は市民のための会館であるので、文化活動や発表の場を制限するわけにはいかない。インフラ整備として、新たなものを作っていかなければならないと思う。(折谷委員)
- ・新幹線が来るまで8年。体育館と市民会館を両方つぶしてコンベンションホールを建てなければ、中途半端なものできてしまうし、2つを壊して2つの事業として建てるとなると、今の財政状況では不可能に近いと思う。(古川委員)

【運 営】

- ・赤字の議論になると、作ること自体が難しくなる。いくらその運営が赤字になろうとも、それ以上に函館にお金が落ちれば良いといった考えに立たないといけない。(古川委員)
- ・コンベンションを受け入れる体制や熱意，人員が必要で，作ったとしてもその体制が必要だと思う。それら情報も含めて，マネジメントする力が函館は，他の地域に比べて整っていないと思う。(星野部会長)
- ・大学を使うのも一つの方法だが，例えば未来大など，土日の食事をするところがないなど不便も多く，開催するにあたっての総合的なサポート体制を作り上げていく必要があると思う。(星野部会長)
- ・コンベンションを開催しようとする時，事務局が一番手間に思うのは，会場・宿の手配，食事，懇親会，観光ツアーの設定である。それらに忙殺され，肝心の学会の準備に手が回らないことがあるので，事務局を代行できる場所が必要だと思う。(番匠委員)
- ・コンベンション協会には事務局を代行できるだけのスタッフがいらない。必要があれば人数を増やすという考えもあるが，議論が必要だ。(古川委員)
- ・需要と供給の関係で，お世話する大会が多ければ，そういう体制も必要となる。システムを作って，どのような需要があるのかシュミレーションしなくてはならない。(古川委員)
- ・コンベンションのサポートについて，NPO的(ボランティア)なものや，業者団体などを考えてもよいのではないか。(番匠委員，星野部会長)

【データ収集】

- ・単独のコンベンションだけで黒字に持っていくのは難しいと思う。大きな施設を作って埋まるとは思えない。波及効果を計数化して，経済効果を計算しなければならないと思う。(星野部会長)
- ・必ずしも大々的な施設を作らなくても，何が必要なのかを検討し，開催頻度などのマーケティングが必要だと思う。(星野部会長)
- ・マーケティングにしても人数，分科会数，日数，家族同伴状況などを調査し，開催できる大会がどれくらいかを見て，採算性の検討をしていかななくてはならない。(番匠委員)

第二部会における討議内容について

1 意見・提言の分類

第二部会(2回開催)における意見および提言を、以下のとおり分類整理した。

(1) シティガイド検定

【必要性】

- ・おいしい商売だと思う。本も売れて受験料も入ってきて、勝手にシステムとして動いていく。これに子供でも参加できるといい。地元のことがよく分かり、地元が好きになっていくと思う。(松原委員)
- ・検定ガイドブックはどちらにしてもあった方がよい。もし失敗しても、成果物としてこの本が残るのだからリスクは少ない。(松原委員)
- ・小学校高学年にとっては、これは副読本としても活用できる。(根本部会長)

【仕組み作り】

- ・会議所青年部では、パコスマを実施する際に、ドライバーのガイド認定を行い認定シールを貼ることなどを考えたが、一度にそこまで行くのは難しいとのことで現在のものになった。シティガイドの認定に関しては継続して検討するという事になっている。(松木委員)
- ・テキストは会議所内ではなく学識経験者、知識者などが集まって作成し、システムの管理などは会議所が行うのが妥当だと思う。(松木委員)
- ・会議所は検定に関してはいろいろとノウハウを持っていると思う。試験会場の作り方、試験監督の仕方、合格者の発表などいろいろと細かく大切な部分を知っていると思う。(丸藤委員)
- ・級分けをする必要があるだろうか。他のところはどういう設定をしているのだろうか。1級をとればどうか、2級ならどうか……。 (根本部会長)
- ・既存のボランティアガイドの人たちと、この検定をどうリンクさせたらよいか。こういう検定の問題点は、有資格者と無資格者の差をつけてしまうということで、持っていないで活動している人たちが、どういう感情を持つのか。

- ・そこが心配事。みんなが取って宣伝してくれればいいが・・・。(根本部会長)
- ・仕掛ける方で何が重要かといえば，情報だと思う。なぜ受けに来たのか，どういう思いを函館に思っているのかなど，レベルの高いアンケート調査ができると思う。検定は，受験して上級者が何人増えたとかが重要ではなくて，そういうものが必要だと思う。(根本部会長)
- ・ライセンスの等級で分けるのではなくて，地区のエリアで分けて，それをいくつか取れば，全体をガイドできるといったようにするといいと思う。(土田委員)

【テキスト】

- ・テキストの作成については，会議所内部だけではなく外部の意見も入れた方がいいと思う。(丸藤委員)
- ・テキストもエリアごとの章立てにして，最新情報は最後の章にすると，改訂するときそこだけ換えればいい。毎年最新情報が出るというわけではないので，何年かに1度換えていけばいいと思う。(土田委員)
- ・本の値段の上限は札幌だと思う。2,000円以下(1,500~2,000)で，それ以上情報を入れると重たくて誰も読まなくなる。京都は専門的すぎると思う。(根本部会長)
- ・テキストの作成に関しては，行政側が会議所と打合せをしながら，テキストを作るシステム作りをしていけばいいと思う。(根本部会長)

【講習会】

- ・最新情報は本に随時盛り込まなくても，講習会などで配付すればよい。そうすれば講習会の有効性も上がると思う。(丸藤委員)
- ・あと講習会の位置付けをしなくてはならない。受験のためであったり，バージョンアップのためであったり，生涯学習であったりなど・・・。(根本部会長)

【合格後の期待】

- ・実際に検定を取った人がどう観光で役割を果たしてくれるかが重要だと思う。ステータス的に取るというのは多分たくさんいると思うが、ホスピタリティがあって観光客に接しようとする人の比率は低いと思う。(土田委員)
- ・一つの地域に限定して、講習を受けた人が資料を見ながら観光客に説明をするというのを沖縄で体験した。すごく良く、簡単で、気軽に声をかけてくれた。また、静かな場所では、イヤホンで説明が聞けるようなシステムはどうか。(土田委員)
- ・何人かごく少数の人が街の印象を決めてしまうといった面もあるので、地域限定で説明してくれる人がいれば良い印象につながると思う。(阪口委員)
- ・函館には説明を聞かないと、良さが分からないところが多い。(土田委員)
- ・函館は観光地だと意識していないのは自然でいいのだけれど、逆にもっと持って欲しいところもある。それともっと勉強して欲しい。それが普段にでてしまう。(根本部会長)
- ・一定のエリアだとそんなに負担にならないと思う。誰でもできて、共通の資料で10回ぐらい講習会を受けると認定してあげて、大人数を扱わず少人数でやるとやりやすいと思う。(松原委員)
- ・資格を通して、観光ファンクラブというか、そういうネットワークをもっていれば全国的に情報のやりとりができると思う。(根本部会長)

【データ収集】

- ・取った人がどのように利用しているのかといったことや、階級にどういう意味があるのかなどは行って聞いてみないと分からない。どういう使い分けをしているのか、受ける人はどういう意識で受けるのかなども……。そういう調査が必要だと思う。(根本部会長)

【英会話等】

- ・英会話だとか救命救急の講習会も必要だとは思いますが、それは階級のシステムが決まった時点決めていけばいいと思う。(根本部会長)
- ・外国人の対応は、函館在住の外国人(国際交流センターの方々)にやってもらえばいいと思う。(松木委員)

(2) 情報化関連

【課題提起】

- ・情報はある種インフラでお金がかかる。最初の経費というのは色々出てくるのだが、維持やメンテナンス(情報の更新)に随分経費がかかる。(松原委員)
- ・できるものはいろいろあるが、何か1つ函館の観光に必要なもの行った方がよい。(松原委員)
- ・流れていく情報もあるが、ストップする情報もある。たくさん流すのではなくて、広がっていくようにクオリティを気にする必要がある。(根本部会長)

【携帯電話】

- ・ツールのキーは携帯電話だと思う。毎日の情報やレストランの案内、公衆トイレの場所、時間を潰すための情報をGPSを利用して提供する。(松原委員)
- ・携帯で1回の利用での情報取得は30円程度かかる。観光客は旅費で金がかかり、さらにまたというのはきつい。アンケートを取ってみると有料だと使わないと言う答えが多い。(松原委員)

【レンタカー・カーナビ・駐車場情報】

- ・駐車場の空き情報も重要である。最近ではレンタカー専用の駐車場(スペース)を設けているところもある。(土田委員)
- ・函館でそれほど駐車場を求めるニーズはあるのだろうか。みんな路上駐車するのではないだろうか。東京とかでは当たり前だが、駐車料金を支払う抵抗感があると思う。だとすると、駐車場の空き情報を提供しても意味がないように思う。(根本部会長)
- ・観光客には有効な情報だと思う。マイカーに対するというより、レンタカーに対する情報提供と考えた方がよい。レンタカーで来た人はその場所も分からないと思う。(土田委員)
- ・携帯からその情報に入っていくと云うより、カーナビにそういう情報を入れた方がよい。(土田委員)
- ・旅行の主流はレンタカーになっている。個人旅行の7~8割はレンタカーを利用している。(土田委員)

- ・東京のレンタカーのカーナビには駐車場の満車や空き情報などが詳細に提示されるが、北海道のカーナビにはそれほどの情報までは載っていない。(松木委員)
- ・駐車場を探してうろうろする時間は本当にもったいなく感じる。(松木委員)
- ・行きたい場所と、それに伴う駐車場の情報の提供が必要となる。(根本部会長)
- ・そういう情報提供があれば、100円200円払っても駐車場に止めた方が、路上駐車して捕まるよりましだと思えると思う。(土田委員)
- ・レンタカー会社と提携して、有料駐車場のカードを無料にするのは可能ではないか。(根本部会長)

【交通標識】

- ・函館観光のクレームの3割ぐらいが、標識が分かりにくいなどの交通関連である。コンピューターに頼らない、標識などの情報の見直しをする必要がある。(松原委員)

【IT以外の情報提供】

- ・逆にスローな情報の提供があると思う。函館に来ている人を見ていると、スローな方を望んでいるような気がする。(根本部会長)
- ・函館に来る観光客を見ると、高齢者、携帯やインターネットが不得手な人、函館に来たときぐらいそういうものから離れたいと思っている人が多いと思う。そういう人たちにさりげなく情報を提供する必要がある。(松原委員)
- ・役に立つ情報もあると思うが、持って帰りたい情報もあると思う。函館は夜景以外でもいいところがたくさん分散しているので、例えばおみやげの包装紙に名所を印刷するとか、すごくスローだけれども、次につながるような気がする。(阪口委員)
- ・函館のいいところがカードになって、いろんなお店にバラバラに置いてあれば集めたくなると思う。(丸藤委員)
- ・空港など函館の出口にそのようなカードを貼っておくアルバムみたいなものがあればいいと思う。(松木委員)

【入場料】

- ・いくら払うと止め放題というのはいいかも知れない。それが観光施設の入場料金とセットになっていけばよい。(松木委員)
- ・年間フリーパスなんかがあると随分いいと思う。(松木委員)
- ・そういった観光客にも受け入れやすいシステムは、実は市民にも大切なものなのかも知れない。(旭山動物園とかも随分安い)(根本部会長)
- ・地球博も安く、年間パスも随分安かった。沖縄の美ら海水族館は1回 3,000円と高いけれども、フリーパスが2回分ぐらいで、地元の方はそれを買う。その方がお客さんを連れて行きやすいからだ。(土田委員)
- ・函館にいたらロープウェイもパスがあったらいいと思う。(土田委員)
- ・先ほどの検定に合格したガイドは無料とかにすると価値も上がると思う。その他の施設についてもそうすればいいと思う。(土田委員)
- ・市民にお得感があり、観光客にも喜ばれるようなものもいい。(根本部会長)
- ・情報化とサービスをうまく組合せればいいものができると思う。(根本部会長)